



240W多結晶太陽電池モジュール8,784枚が設置された総出力2MWのマリンピア沖洲太陽光発電所

## マリンピア沖洲太陽光発電所

MARINPIA OKINOSU SOLAR POWER PLANT

### 徳島県直営の2MWソーラー発電所

2004年に「環境首都とくしま憲章」を宣言した徳島県は、全国トップレベルの日照時間、急流の河川、豊富な森林資源など、恵まれた環境を活かした「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」を策定。その一環として、西日本初の「県営メガソーラー」の設置と運用に着手し、2013年4月に「マリンピア沖洲太陽光発電所」が竣工を迎えた。発電所建設地に選ばれたのは、徳島市東のベイエリアにある廃棄物埋立地。太陽光発電の固定価格買取制度を利用し、遊休地の有効利用が図られた。約2.7haに240W多結晶太陽電池モジュール8,784枚を設置して2MWを

出力。一般家庭約660世帯の電力量を賄うことが想定されている。太陽電池モジュールのコンクリート基礎にはH型の構造を採用し、埋立地から発生するガスが滞留しないように配慮されている。また、塩害による架台の腐食を防止するため、高耐食性鋼板が採用され、暴風時の風圧荷重と発電効率を考慮してモジュールの傾斜角は10度に設定された。さらに、隣接する環境学習の場である「エコみらいとくしま」に展示室が設けられ、太陽光発電所が望める。徳島県では沖洲に続いて10月には「和田島太陽光発電所」が運転を開始。県内企業による太陽光発電所建設など、官民を挙げた取り組みが進んでいる。

### マリンピア沖洲太陽光発電所

所在地 / 徳島県徳島市東沖洲  
 事業主 / 徳島県  
 施工 / 藤崎電機株式会社  
 竣工 / 2013年4月



ベイエリアの埋立地に確保された敷地は約2.7ha



暴風時の風圧荷重や発電効率を配慮して傾斜角度は10度に設定された



埋立地の地下から発生するガスが滞留しないように設計されたH型基礎



隣接する「エコみらいとくしま」に設置されたサイネージ

### 主な電気設備

- 太陽光発電システム「多結晶245」